

# にぶえ〜で〜びる

ありがとう子供クリニック

院内新聞第7号

2015年6月12日発行

3週間続いた梅雨が6月11日をもって明けました！！(\*\_\*)これから夏本番の季節が到来します！沖縄の夏といえば、湿度が高く、蒸し暑いのが特徴です。このことから、子どもの肌がとても気になるのもこの時期です。虫が多く発生する季節、汗をかきやすい季節など、乾燥肌になりやすい冬と同じく、梅雨や夏の時期においても皮膚は様々な症状を引き起こす季節と言えます。



## ☆アセモについて☆

私たち人間の皮膚には、「汗管」と呼ばれる汗を分泌する器官がたくさんあります。その器官の出入口に汗がたまり、アセモができてしまいます。子どもにできやすい場所は、頭、額、首まわり、肘の内側、足の裏、お尻の部分などです。特に、ムチムチの赤ちゃんはアセモができてやすいです。

アセモの治療は、こまめに汗を拭くか、シャワーなどを浴びること。その後、弱いステロイド剤である「ロコイド(クリームタイプ)」を塗って治療します。ロコイドを塗る際は、皮膚を擦り込むのではなく、かぶせるくらい、しっかりと塗布することが重要です。クリームタイプは、軟膏タイプに比べて、少し弱いですが、夏の暑い時期にはサラサラになるクリームタイプがお勧めです。しっかりと塗布すれば、だいたい2-3日で効果が出てきます。しかし、それでも治らなければ小児科にて受診する必要があります。



## ☆タイワンキドクガに注意！！☆

カブトムシ、クワガタ、セミ、チョウなどなど、子どもにとってこの時期は、虫とおトモダチになる季節の到来です。自然のものに触れるのは子どもの教育において、とても重要なことだと思います。ですが、外で遊ぶとなると、子どもにとって大敵なのが「虫刺され」ではないでしょうか…(\*\_\*)??

この時期の沖縄で特に気を付けなければいけないのがタイワンキドクガの幼虫です。この蛾の幼虫の大量発生によって症状の酷い皮膚炎が県内各地で起きています。タイワンキドクガには、体表に毒針毛<sup>どくしんもう</sup>と呼ばれる0.1mm くらいの目に見えない毛がたくさんついています。この毒針毛は、さなぎや成虫になっても生えており、その毛に触れると皮膚は、大きなかゆみと赤いぶつぶつが広範囲に広がります。この幼虫は、公園だけではなく、家のベランダや庭にも多く生息しているようで、洗濯物に毛が付着して皮膚炎になったりもします。また毒針毛は飛散性が高いため、風が吹けば遠いところまで飛んでいくというとても厄介な存在です。



この蛾の幼虫を見かけたら、近づかず、触れないこと。そして、発生する場所(樹木の下など)にも行かないことが重要です。もし公園で遊ぶ場合は、肌の露出をできるだけ避けるような服装が良いでしょう。もし幼虫に触れてしまったら、触れた皮膚の場所を粘着テープに貼り付けて毛を除去します。そして、泡立てた石鹸でよく洗って下さい。赤みが広がる、もしくはかゆみがあるなら必ず小児科に受診してください。

